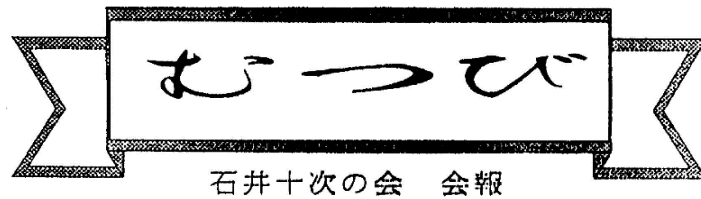


2026 年
(令和 8 年)
5 月 14 日



344 号

「新天地育児院」の歴史と石井十次先生

新天地育児院 理事 室賀康史

このたび、橋田会長より原稿依頼をいただきましたので拙い文章ではありますが、私と新天地育児院との事、石井十次先生にまつわることを書かせていただきます。私が石井十次先生を知ったのは、平成15年10月に高鍋町で開催されました日本商工会議所全国商工会議所青年部連合会九州ブロック大会に参加したことがきっかけでした。石井十次先生というすごい人が、岡山で活躍されていたという大変な驚きと感動に胸が震えました。すぐに「石井十次の会」に入会させていただきました。

新天地育児院は、梅里元理事長と宮崎・高鍋にご一緒し、友愛社のセミナーへ参加したことが契機となり、理事をお受けすることとなりました。

新天地育児院の敷地の中には、設計・前川国男氏、施工指導彫刻家・流政之氏で大自然岩の前に石井先生の胸像を置き、約三十平方メートルの石畳（北木島産花崗岩）と大きな石積みの壁（東北産浮金石）を中心に約一千平方メートルの石井十次記念聖園がございます。この聖園は石井十次先生の生誕百年、没後五十年を記念して記念日に大原総一郎氏（倉敷レイヨン社長）、守分十氏

(中国銀行頭取)、谷口久吉氏(山陽放送社長)など岡山財界が中心となって建造されました。

その手前に岡山市内山下の西質義氏から寄贈を受けた、札幌館と推測される石井十次記念館もこの地に移築され、昭和56年に新天地育児院に記念聖園とともに寄贈されました。今では、岡山孤児院の在りし姿を伝える唯一の遺構となっています。

利活用検討委員会が「市民に歴史や十次の精神に触れてもらう機会を」と企画し2024年11月に個人・グループ向け見学会を初めて開きました。

見学会では午前10時～11時半、岡崎真理事長が子供と寝食を共にして養育した歴史や建物の構造を説明し、児童養護施設・南野育成園の叶原土筆元理事長と顕彰団体「石井十次に学ぶ会」の東森貢会長が講演されました。現在も不定期で、貴重なDVDビデオの上映や見学会を行っています。

最後に新天地育児院の歴史を簡単にお伝えさせていただきます。

創業者は堀ミチ先生で明治44年に「愛の山新天地」として創設されました。祖母堀ミチ先生の福祉の精神を引き継いだ池田愛先生が、児童施設「新天地育児院」を開設されたのが昭和25年(1950年)でした。

以来、親族に理事長を継承されていましたが、現在は理事の中から互選された岡崎理事長によって運営されています。これからも「新天地育児院」を必要とする子供たちのために微力ながら力をつくしていきたいと思っています。

ご縁出会いから学ぶ大切なこと

石井十次の会西都支部

監事 橋口 智俊

私は現在、西都市社会福祉協議会において、令和5年度から事務局長として勤務していて昨年からは石井十次の会西都支部の監事もしております。社協の前会長は、西都支部長並びに『むつび』の編集委員長をしておられる竹之下 悟さんです。

私と竹之下さんとの最初の出会いは、平成26年4月、西都市役所スポーツ振興課へ異動したときでした。当時、竹之下さんは西都市教育長としてご活躍中でした。私は教育委員会の直属ではありませんでしたが、同じフロアで勤務していたご縁から、教育委員会の月例会議にも参加させていただき、スポーツ行事等の報告を行っていました。それがご縁の始まりです。

その後、福祉分野で再びご一緒することになるとは思いもよらず、充実した2年間を過ごさせていただきました。私が最も印象に残っている言葉が「不易流行」です。これは、いつまでも変わらない本質的なものを大切にしながら、時代や状況に応じて変化するものを取り入れていくという考え方で、さまざまな分野に応用されています。福祉分野とは全く縁のなかった私にとって、この言葉は大変ありがたく、多くの局面で活用させていただいています。

また、社協会長時代の竹之下さんの挨拶で、「利己主義の対義語は何でしょうか」と問いかけられたことを思い出します。答えは確か「利他の心」だったと思います。ここ20年ほど、「自己責任」という考え方が強調されてきましたが、それが行き過ぎると、すべてを個人で背負わなければならない社会となり、やがて社会そのものが崩壊してしまいます。本来、日本人には異なる人間観があり、それを探求していくと「利他」に行き着くのだそうです。

「利他」は受け手によって規定されるため、与え手主導になると、ありがた迷惑になることもあります。受け手が「ありがたい」と感じたとき、初めて「利他」は成立します。これからも出会いを大切にしながら「ありがたい」と思っただけの行動を心掛けたいと考えます。

奨学生選考委員長 10 年間を終える

10 年間務めた奨学生選考委員長を新年度で交替することとなった。
後任は島埜内遵氏である。現在、高鍋美術館長職にあり学生時代のバレーボールの
輩でもあり安心してお任せできる。10 年間を振り返れば給付額も月額 1 万円から
倍額の 2 万円となった。

また、対象者となる高校卒業後の進学先も大学のみならず多様になってきている。
例えばアスリート系・医療系・農業系の専門学校等。近年は大学院進学もある
し、外国への留学希望者も。

さらに言えば、友愛園の大学進学率は 50～60% で推移しており日本の高校生の平均
と遜色ない実態がある。

これすべて児嶋草次郎園長を中心とした施設関係者の指導の賜物である。このことは
声を大にして誇りとしてよい数値である。

この背景には、施設入所時のハンディキャップを克服させるべく 3 つの「立ち直りの
原則」を意図的・計画的に生活の中に位置づけて実践しているからであると推察す
る。

立ち直りの原則 1 愛情(親に代わる) 2 志を育てる 3 よき出会い

3 つの原則は十次が青春時代に失敗と挫折から七転び八起きで立ち直ったものと
合致している。これらの育成方針が功を奏して進学率も高いのであろう。

児嶋草次郎理事長が目を細めて「いずれ、施設卒園生から県知事を輩出する日が
来るのでは」と語るのも決して夢物語ではないと確信する 10 年であった。

反省すべきこともある。大学進学にもかかわらず給付対象者から除外していたこ
とがある。

それは進学後の居住先が、友愛社所有の自立援助ホームの入居者の学生である。

児嶋理事長の「すべての進学者に給付を」との強い思いを受けて新年度から月額
1 万円を給付することとなった。

給付額からみれば平等ではないが公平性は堅持される対応と考えるところである。
今後とも会員諸氏のお力添えを期待しながら任を終えることとする。

奨学生選考委員長 竹之下悟

・・・・・・・・・・・・・・・・おしらせ・・・・・・・・・・・・・・・・

★新会員のご紹介(敬称略)

【宮崎市】中房里加 中川幸子 菊地けい子 杉雅夫 【都農町】宮本康広

★ご寄付をいただきました(敬称略)

【県外】柳田せい子 師村妙石 永野泰三 岩井田幸男 毛利尚武・洋江 松岡宏 坂田眞樹
・由美

山懸文治 増田由美 富田速人 叶原土筆 京えりこ 栗崎教雄【宮崎市】横山久美子 飯尾
彪 岡元ます子 石井献二郎 荒木恵津子 今門幸蔵 玉利カヨ子 酒匂千昭【延岡市】横
山裕 家高清松田良子 荒木野恵利子【小林市】松田洋子【都城市】天水浩毅【西都市】黒木
三鶴 白川幸子 鬼塚長幸 河野由美子 田中尚子 今井美富【日南市】佐藤信明【高原町
】郡山登喜子 岡元有子 川平敬子【高鍋町】池内誠治 永友慶子小児科 徳地明・順子 富
田美智子 浦 叶 河原清子 【木城町】栗田滋代【西米良村】黒木清子

*ここまでの掲載者は編集等の都合により4月20日までのものとしています。

この会報は、宮崎県を中心に全国 1700 余の個人・団
体に毎月送付しています。

☎ 884-0102 宮崎県児湯郡木城町大字椎木 644-1

社会福祉法人 石井記念友愛社後援会

石井十次の会

TEL/FAX 0983-32-4612

メール yuuaisya-jyuujinokai@kijo.jp

編集後記

- 巻頭は岡山県の室賀康史氏から玉稿をいただ
いた。室賀氏とは夏季セミナーと岡山研修の
二回もお会いする機会が。ご多用な職にあり
ながら岡山孤児院発祥の地「上阿知」で石井
十次の教えを今につなぐ取組みは玉稿からも
存分に伝わる。 編集委員 竹之下悟